

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 佐々木良作 (都市河川係長 糟谷昌俊)	内線	4408 (4417)
------	-------	---------------------	-------------------------------	----	----------------

事業種目	河川	事業採択年度	S59		現計画	再評価時点
事業名	総合治水対策特定河川事業 (一) 淀川水系猪名川	着工年度	S59	総事業費	240億円	240億円
		再評価年度	H10	内用地補償費	180億円	180億円
事業区間	川西市鼓が滝～多田院			完成予定年度	H25	-
所在地	川西市			進捗率 (内用補進捗率)	69% (74%)	65% (73%)

事業の目的

事業内容

当該河川は河積が狭小で一部には無堤区間を有し、河積を阻害する横断構造物が存在する。昭和42年7月台風と梅雨前線による豪雨（浸水面積50ha、浸水家屋5,062戸）等、沿川市街地は過去から幾度も甚大な被害を受けている。

このため、当該地域の浸水被害を防止するとともに、宅地開発に伴う流出増に対応するため、昭和28年9月台風13号に対応した治水安全度1/10を目標に改修を行い、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するものである。

計画流量 Q=1,420m³/s
(治水安全度1/10：銀橋)

実施内容 L=2,970m W=72.5m～51m
築堤、護岸、掘削、道路橋6橋等

進捗状況

昭和59年に着手し、これまでに築堤、護岸、掘削、横断構造物の改築等を行い、(市)銀橋上流付近から(市)こんにやく橋上流区間までの流下能力を計画流量の100%に向上させた。

再評価時点(H10)からH15までに、こんにやく橋の架け替え、矢間川合流点からこんにやく橋上流付近までの築堤、護岸、掘削等を実施し治水安全度の向上を図ってきた。今後も事業の重点化と効率的な事業執行に努めH25年度に事業完了させる予定である。

また、河川整備計画を現在検討作業中である。

評価視点

評価結果の説明

- | | |
|------------|--|
| (1)必要性 | ・川西市多田地区の市街地、国道173号、県道川西篠山線、能勢電鉄妙見線等を浸水被害から守るため築堤、護岸、掘削、横断構造物の改築等の河川改修工事を実施しており、残区間の治水安全度を早期に向上させるため、継続的な整備を実施する必要がある。 |
| (2)有効性・効率性 | ・B/C=1.9
・住宅宅地関連公共施設等総合整備事業の導入により重点的に整備を進めている。
・道路管理者と連携し橋梁の架け替えを進めている。 |
| (3)環境適合性 | ・工事による樹木の伐採を最小限にとどめ、工事影響範囲については現地発生土による覆土を行い緑地の回復を図っている。
・護岸については捨石工や木工沈床等を採用し、生態系に配慮している。 |
| (4)優先性 | ・残事業区間には狭窄部や築堤高不足区間もあり治水安全度が低いことから、当該地区を浸水被害から防御する本事業の優先性は高い。 |

再々評価の結果

事業継続

左の理由

上記理由により、事業継続が妥当である。